研究会記録　　1959・10.20　1:30～6:00　（人文分館会議室）

人類社会系統論

Ume　はじめに私の経験から。サルナートへ行った。インド佛教の中心地になっており，マハボディ・ソサエティがある。お寺がある，寺の壁画は日本の画家の佛画がある。カネは京都から。シナ寺があり，その向いには東南アジア系の黄色い衣のボンサンがいる。インド佛教の中心地へ行ってインドのものがない。インドのものであるのはヒンドウーだ。エルサレムでもよく似ているのでないか。遺跡はあるが実際に生きて動いているのはイスラムである。トインビーも「東から西へ」で同じことを書いていた。

佛教とキリスト教の発生以来の歴史を見ると両方とも発生地を離れて佛教は東へ，キリスト教は西へとのびていった。発生の地は他のものでおきかえられた。キリスト教の行きつくところはヨーロッパで佛教は日本にそれぞれ安住の地を見出した，この二つの流れをたどって対比をつけてみよう。
西における源流はメソポタミヤ，東における源流はガンジスあたり。メソポタミヤ・バビロニヤなどにいっぱいあったと思われる中からひとつ出てくるのがユダヤ教である。更にキリスト教イスラム教が出てくる。三つとも同じパタンのものである。これに対して東ではインドのヴェーダの世界から整理されてでてくるのがブラーマニズムバラモン教であった。ユダヤ教の中からでながらそれと対立してのびていったのがキリスト教であり，これに対してバラモンから出ながらこれに対立しながら自己をかたちづくるのが佛教だ。年代的には少しずれるが佛教が発生した土地にはバラモンがヒンドウーにかえられた。ユダヤ教はイスラムでおきかえられる，イスラムとヒンドウーが対比できるのでないか。
ユダヤ教系は聖書がある。旧約・新約・コラーン。絶対的な超越神がある。予言者がいる。

Uey　佛教典やヴェーダは聖典ではないのか。

Ume　ソーだが性格がちがう。こっちは絶対性がない。bible というのは予言者によって伝えられた超越神のことばである。

Uey　しかしこの論点はまだギモンの余地がある。

Ume　佛系は多神教的である，多神教から一神教への進化というのはまちがいだ。両方ともはじめからそうなのである。こっちの方は輪廻的で，あっちは終末観がある。行みたいなのがこっちにある。

Uey　東方教会にはある，それは共通だ。インドで始めて大乗佛教が成立するのが1世紀，キリスト教はキリスト死后すぐ新約がでている。リュージュとペテロ　東での経典は4回目の結果において整理され，ドクマがかたまる。4世紀で佛教は絶頂に達する。あと衰えて7世紀にはタントラの傾向が出る。そのあとラシプト族がセイハシ佛教は壊滅シヒンドウーにおきかえられる，これが7世紀，インドが回教化するのはずっとあとの13世紀。
西の方では中心舞台がすぐメソポタミヤからローマへ移る。しかしその移るときに後に出るグリークオーソドックスの地盤が残るように思う。
中国佛教が日本において本流のように見えるように西方世界ではギリシャ正教が本流のように見えるということがあるのでないか。

此処で1世紀前后の世界情勢の対比をしてみよう。
ひとつは地中海的世界の発展，モヒトツは中国的世界の発展。
エーゲ海文明などをその昔に考えねばならないがこれがギリシャ時代の都市国家群があり，一種の戦国時代であり，またさまざまの学問が発展する。中国的世界では殷が周へ，そして春秋戦国になって都市国家群が出，さまざまの学問思想がでてくる。そのどちらの学問思想ものちの学問思想に原型となるような重要性をもっている。東地中海と黄河流域とで同じようなことが起っている，その次に群雄割據の情勢から古代帝国が生れる。マケドニヤ前4世紀　秦が前3世紀　どちらも征服また征服でつくりあげどちらも一代でひっくりかえる。しかしこのことによってあっちではギリシャ的世界とペルシャ的世界とがはじめて結合され，こっちでは黄河流域の世界と揚子江流域の世界がはじめて結合される。これがローマと漢によってひきつがれる。此のローマへキリスト教が入ってローマ的秩序と激突シ300年ぐらいモタモタしたあげくやっとキリスト教はローマの中に位置を占める。漢では西域までその世界が拡がり張　が現われる。ローマで　漢で武帝が同じことをやっている。
1世紀後半において東西両帝国が実際に触れ合う。こうしたところへ佛教が入る。佛教的秩序と佛教とが激突する（道教との対立）。1世紀に入ってきながら伸びないのである。これは何れも政治的軍事的秩序の徹底した国家だったからである。帝政ローマ後期や六朝の時

代になるとどちらも文芸的宗教的時期である。六朝時代は3～6世紀で皇帝自身が仏教者になる。帝政ローマでは皇帝がキリスト教に改宗することがおこる。斯うして両者共ようやく伸びるのである。

次は分裂をおこす話

キリスト教はローマンカトリック，グリュオーソドックスの分裂をおこすことになるが分裂の萌芽はずっと以前からあっただろう。仏教はヒンドウクシを越えるのと南へ出るのとである。ドグマティックにはじめから分裂が見られる それが上座部と大衆である。それがパミールと切れるのがラジプト族の制圧である（9世紀）。大衆の方はシルクロードを通じてシナへ出る。上座部はセイロンから東南アジアに出る。　ローマの分裂がほぼ出来上るのが11世紀（教会分裂）

以上のような対応を考えている，いちばんはっきり対応のないのはこっちには十字軍がないということ。
またなおおかしな対応がある。エチオピアは単性論でグリコオーソドックスからでてくるがこれが異端だと宣告されるのが5世紀ぐらい，エチオピアがこれに改宗するのが6～7世紀である。　これに似たものはラマ教，これはむしろ大衆系から出ているが伝来が6世紀，改革が7～8世紀，どちらも独特の儀礼を残している。どちらも広大な寺領をもち，僧は兵役を免ぜられづーっといてよい。主長は政治主権と極めて密接な関係にある。上山さんの説では即身成仏というのはタントラだけだという単性論ではキリストと神サンとは同じものだと考える。だからミイラを作んだという説があるという。エチオピアではモンクが浪費しよるんでこれがこの国のガンだという。面白いことにはほかの宗教が殆んど入っていない。

Kaw　だれがモンクになるのか

Ume　だれでもなれる。

文明中心と辺境

ローマと漢が中心としてはっきりすると はじめて辺境もはっきりあらわれる。アルプスのかなたではゲルマン国家がおこる，最初の文明的帝国があらわれる。（ゲルマン）　都市アーヘンの都市計画がローマそのまま，日本でも同じく文治的国家が現われ，仏教を統治原理とする聖徳太子 ⟶ 聖武天皇，奈良の都市計画はそっくり唐のものである，国家統治原理が両方とも世界宗教が入ってくる。ゲルマンでも日本でも統一したものの内治の原理がないということになる。そこで文明というものが大宗教である。上山さんの指摘した心の問題のほかに統一したのが民族の集りであったから民族を越えた原理を要したという点がある。　メロビンとカロリン，蘇我氏と天皇氏

Uey　和をもって尊しとするという意味はそれであったということを今の歴史家は認めている。

Ume　ゲルマンでも日本でも一方文物すべて文明にならうし一方民衆に対しては布教活動が盛んになる。日本では仏教は専ら上層のものであるという説は間違いだと思う。日本で国分寺が出来るかむこうでそれがあるか。

Tan　司教教会がある，教区が9～10世紀にはできる，降って教区教会ができる，多くはローマが侵入したあとにつくる。

Kaw　国ごとにつくったというのと教区とは同じ性質のものか

一同　対応して見られるようだ

宗教改革

西ヨーロッパ世界と日本においてのみ宗教改革がおこった。あちらでプロテスタント，こちらで浄土真宗。

Uey　プロテスタントには二つある，ルターとカルバン派。このようにこまかくするとあなたの対応では困りますか。　浄土教と浄土真宗ぐらいの違いはないか。

Ume　新しい宗教教団としてでてくる。出方まで似ている。封建制の中で日本では城をもってあらわれる

Sim　ルーテルの方は領地などはない，諸侯とはつながって居たから

Ume　それならこの点は違うな。

Kyoto University

Uey　日本ではそんな諸侯はなかったから自力でやったのだろう。
Ume　日本では石山城を渡して京都に来て聖と俗を分離してお互いに妥協することになる。
Ume
Uey　ヨーロッパでは30年戦争が妥協の前の戦い。これらのあとで信仰の自由がでている。
Ume　俗权と分離して別の平面に位置するようになって教区制ができあがる。中世的システムでは僧院制という形が強い。俗からの逃避だ。
Tan　逃避以上だ，教区の人を集めて新しい地域共同体をつくっている。だからもっと政治的でもある。
Ume　教区制という前の僧院は領土制の中にはまっている，という寺領がある。
Kaw　相当資本蓄積のセンターにはなっていたろう。
Uey　西洋では教会領没收ということがある。
Tan　イギリスでおこる
Uey　フランスもそうだ
Ume　日本でも江戸时代にまだ寺領がある。しかし中世との違いは寺領が寺の維持費のもとになっているだけでないか。
Ima　田舎の寺でもいちいち寺領があった。
Ume　地所をもっていた，これを小作に出していた。
Ima　だれかはsecularigationからあとという話だったが地区割だろう
Ume　中世の寺は自立的だったが本山組織になったのは近世で本山末寺の系统ができ，区役所の役をするようになる。西洋でも同じだ。まだ證據はないが見当では教区ができたのは新教のあとでないかと思う。旧派はこれでいけるということになってきたのでないか。
Tan　ヨーロッパでは1/10税をとっていた，その点は少しちがう。
Ume　近世では特定の個人が特定の寺と結びついていた。
Ima　氏神さんと一緒に寺ができ小ばおのずからそうなるのでないか，地域性からそうなってくるんでないか。ボクに云わせたら新しいヤツが古いヤツを見習って伸びていったという見方もできるのでないか。
Ume　ここのところはもっと調べんナラン。
Ima　家に佛壇を置きだすのはいつからか。盆というのか寺と結びついて了うのはいつからか。寺と家との結びつきの问题はもっと見ナンイカン。
Ume　柿田さんは佛さんを全く抜かしてハル。ボクの假説は#2地域では壇家制がないヤローということ。東南アジアでも皆坊主になるかどこでなってもよい，いわば僧院的で維持は壇家によらない。ヨーロッパでも1/10税は個人が收める。
Sim　どの個人の金がどこへいくかはわからない。
Ima　#2地域でも壇家とはいえんでも地域性を考えれば"やはり壇家的なものはあると考えることもできないか。
Ume　1軒の家であっちの坊主にもこっちの坊主にも出す，无限定である，だから地域性を考慮してもやはり違うものがある。closedでない。
Tan　sectができることも関係ないか，
Ume　あると思う，オレは何のsectかがきまる，東南アジアではsectがない，教義の上での2つのsectはあるか。ヒンドゥーでもsectがあるか吾々のえうている意味のsectではない。イスラムのシーア，派などもアリーの後裔を認めるかないかということでまるで違うものだ。
Tan　ヨーロッパでは教会がsecularigeするとsectができるそのひとつとしてルターなどを考える。
Sim　もとのキリスト教にvitalityを与えるようにsectができてきてるように思う。
Ume　その点こっちにはローマ教会がない
Kaw　この点はもっとしらべる必要がある。
Ume　イベットの宗教改革はどんなものか
逆むきの宗教改革もあるだろう，このあと僧院がふえたとある。

まとめ

#1地域は聖俗分离型である。その上で妥协している。#2では聖俗一致型で合一している。川喜田はこれは逆でないかと云うが私は#2では俗がいつでも聖を喰うてしまうと考える。世俗的权力者が聖の方を身近におさえている。ローマ法皇もそうだ。宗教国家のような見え方になっている。神聖ローマ帝国のidcaはどんなだったか。

Sim　ローマの光栄をつぐということであった。
Ima　武力のある大帝国ができた時には坊主はどうせ勝テヘンサカイ
Ume　日本なんかは大帝国にナレヘンが，なる必要がなかったともいえる
Ima　インカなんかだったら大帝国になっている。
Kaw　Holyがセキュラーをひっくりかえすこともあろう。假りにマルクスシズムがHolyというならセキュラーな帝政ロシアをひっくりかえしヨッタンヤ。(笑)
Ima　サラセン帝国でもコーランをかかげていきヨッタケド実质は武力によって帝国のためにとってキョッタ。
Ume　スルタンは俗界の長であって，宗教の長でもある，東南アジアの清朝皇帝もツァールもそうである。
Ima　その結びつきがうまいこといかんときは衰えているということになるかもしれん。例えば"シナでは俗にクイ入り方がまずかったのだろう。
Uey　しかし中世のキリスト教はトマスなどアリストテレスである。朱子学は天台で佛教の学向だ。それがシナの統治原理になる，だから此の点は検討の要あり。
Tan　俗权を行使するためには宗教の許可がいる，という説と皇帝は神から直接俗权を得るという説と

Kyoto University

なかい論事がある。

Uey　ナポレオンは神聖ローマ帝国をつぐつもりでKingといわないで皇帝といった。
Ima　ヨーロッパでKingがなかく強いということと大帝国ができなかったということは非常に重要な事実である。

Uey　一応系統論的に整理してほしい。
Ume　プロテスタントの浄土真宗の役割についてこの前は大分議論をしたのだが
セキラリゼイションと個人主義の発展とは結びつきがある。更に近代資本主義の発展とが結びついている，というのが私の考えである。第1地域では宗教的にもはじめからそういうパラレリズムがある。このまえは宗教史と思想史のからみ合いを大分問題にした。

Ima　シナ人は個人主義といえるのか。
Ume　何かわれわれとは違うようだ
Ima　われわれでもヨーロッパ人から見たらいつぱいシッポがでてるワナ。華僑の進出はいつからだ?
Ume　起源は明から，シナの海への進出。
Kaw　それには南シナ人のもっているテンペラメントが重要であろう。林悟堂の性格の発見を読むと南シナ人は頭が角張って日本人にヨー似とるという。

Tan　シナに仏教はもうないのか，あるとすれば壇家があるのか
Ume　シナは大体道教である，わずかにあるのは僧院制だろう。皇帝と宗教の結びつきの堅かったのは清朝のラマ教であったが民衆は道教のままでほったらかしになっていた。

及論

Kaw　及論の安東は宗教の役割が喰いたらん。俗化にむかうという単一のコースの取り扱い方が不備である。俗化というのも定義の問題もあろうが個人のイニシャチーブをおしに取りあげようとするのがHolyでないかと思う。ルネッサンスで人間を取りあげるのも，資本主義の発展も個人の利益追求を伸ばそうという点でHolyの流れとみる。現われ方が違うだけ。あなたの見方からいうと個人を貫くドライブには個人元足的というドライブだけでなしに，個人超越的なドライブもはじめからある。両方含んでいるという見方がないか。あなたのは個人完結性を見る理論だと思う。

Ima　Umesao理論のパラレリズムに対する及論としてはくいちがってないか
Kaw　その点は細部は別とすれば大いに賛成。併し何故そうなったかということになるとこういうことも考える必要がある。この点がブランクになっている。
Ima　今のところはパラレリズムを並べただけで法則性などはまだでていない。だから今はこうして並べられるとだまされたみたいに感心するが（大笑い）もうすこし一番の土台の地理的環境で第2地域は大帝国をつくっても台風みたいに他のヤツが突き抜けるというような問題は土台として抜かせない。また西洋の資本主義とナショナリズムとは切りはなせないと思う。ナショナリズムは身体があんまり大きかったら神経がゆきとどかんサカイ，アカンことになろう。清と明治の違いだから国の大きさもecologicalには大切な問題であろう。

Ume　同感

第1地域・第2地域の理論との関連

Kaw　私の共同の理論のうち，体制主義を強制の論理と慣習の論理とのかけたcustomの論理が強いのは第1，第2地域は強制，統制の論，こうでなければならんというテーゼが先にある。
ソ連の如き計画国家
なぜオーでは慣習の論理が強くなるかという問題がある。
Ima　資本主義勃興とナショナリズムを考えると明治維新でうんと統制している。
Kaw　しかし慣習も重要している。
Uey　Ⅲは納得の論理はどうなっているのか。
Kaw　近代資本主義は慣習とfeudalな統制と個人の論理との3本立で伸びた。いつも3本立を考えている。どれもがバランスをとって3本足でいかねばならないが時によってどれかが強くなる。
Uey　第2地域ではどうして統制がドミナントになるか
Kaw　よくわからないが異民族の接触ということで慣習の論理を乗り越えなくてはintegralityが保てないということが考えられる。ローマでもローマ法をこしらえて統制し，また個人の論理を整えることになる。統制の論理はヨコワリの論理で大きな集団をつくりやすい。（川勝のプリント3枚目，11～14を参照）
Ume　明治維新の時の「萬機公論に決すべし」というのは思想的の源流はなにか。ヨーロッパのものか，発明か。
Uey　発明と輸入と両方だ。老中，御三家の水戸，外様の大名などが合脇していて大名の合議制といわれている。
Ume　封建制の中に代議制に移る萌芽があるのか，
Kaw／Uey　そうだと思う。ヨーロッパでもそうなっている。
Ima　しかし日本の場合，アブソリューティズムになっているからちょっと別ではないか。
Uey　オンの末期はそうだが封建制がただちに合議制だといっているのではない。
Ima　仮りにパラレリズムで，ある程度両方に区別があったとすれば100年おくれたかどうかは別としてやはり汽車が走るようになったかどうか，そうなったというのでしょう——ナ
Ume　そうなると思う。同じような汽車かどうかはわからんが。

Kyoto University

Kaw　併しそのところで人口の全体とか，地下資源の有無，フロンティアの有無が問題にならないか。
Ume　それが問題だ。進歩のテンポに影響する。
Uey　サイエンスはできたか。
Ume　できたと思う。テリストラレスと董仲徐をだしたが董の方は陰陽五行だ。大宝の律令もみな易でかいてある。だからサイエンスが出るというのは悲観的だ。
Ima　totemism, religion, サイエンスとこのまえ並べたが，このシェマの考えはひとつひとつevolutionでうつるのだからサイエンスにかえるところでこっちは仇討しょうということは考えてもエエンでっせ。
Uey　陰陽五行はユークリットアリストテレスとはちがう。
Ima　そこでパラレリズムを考えるにしても，コンバージェンスまでは考えなくてもいいというのなら，可能性はないこともないか。
Huz　ハッケからロバチェフスキー空間がでてきたかもしれん。
Ume　そんな可能性はある。語句として対比させて考え得るようなものはできたのでないか。
Kaw　ヨーロッパでは練金術師がおって実利性を越えた，あやしげなものがあったが，こっちにそんなものがあったか。
Huz　レンタレヤの金石学などある。
Tan　ヨーロッパは力学だが，こっちはどうか。
Uey　日本にもあるが実はヨーロッパ経由であった。
Huz　しかし天工開物などがこっちがわにもあるのもさかい，それほどアチラ系一辺倒で考える必要はないと思う。

（註）天工開物は明の末(1637)江西省の学者宋応星によって書かれた。これより古い技術書では「周礼」の考工記が宮室造営，車，楽器，兵器の製造を書いている。農業では華北の農業技術について書いた齊民要術が6世紀前半。
天工開物には西洋の科学技術に関する記載はきわめて少く，専ら中国在来の技術に関心を示したものだから，古い歴史にわたって発達してきた中国技術の全貌を展望できる。

Sim　イギリスの産業革命でも植民地によってできない。だから無理だろう。
Ume　私の説は植民地ができざる得ないということだ。隣になかったから鎖国した。だから内部から鎖国が崩れ，むこうでとってなかったらこっちが印度をとっただろう。ヨーロッパでも鎖国の傾向はあったが，それは隣があるから守りきれない。
Kaw　本草をみてるとヨーロッパと同じに博物学の趣をもっている。日本の本草学者は性格がぜんぜんヨーロッパに似ている。
Tan　ヨーロッパの都市は権力の中心で司教所在地で，手工業者が住んで権力ももっている。そこでは手工業者は軽蔑されていない。こういうところに経験論者などがでてくる。
Ume　日本の科学もそんなとこからでてる。サイエンスを育てたのは上層町人だ。
Tan　イギリスでも人を派遣してどんどん調査させている。
Ume　シナの科学はその点で違う。シナの科学は遂に展開しない。これは官造科学だ。
Tan　だから天文などに走る。しかしヨーロッパでは力学などがでている。
Ume　それは納得できる。
Ima　日本の大学でも文へ行ったのと理工へ入ったのと初期の連中の出身を調べたら面白いな。
Sim　ヨーロッパには日本みたいにあんなにむちゃくちゃにサムライは居らなんだと思う，だからエネルギーが技術に廻ったと思う。プロイセンとくらべてもソーヤ。
Ima　遊民が多かったからそのかわりに商業が発展したわけか。
Ume　米と麦の違いもある，ムギではソナイヤシナエン。
Uey　プロイセンは貿易が盛んやったが日本は商もなく鎖国であった。併しその前は遣唐使などおして貿易もどんどんやっていた。
一同　鎖国してシモタことした。

Ima　川喜田案はここに分類の原理みたいなのを出しておられるわけだが，これを地図に色つけできるようなタイプの形にもってきてほしい。それができますか。さいごに割り当てまで書いてあるが，このまえすでにこうすることはやめにしている，だから逆むきにしないでほしい。
Uey　しかし短い間に分類を片づけようというのだからやはり原理論をもっと練ってからでもよいと思う。

分類の基準　川喜田案　プリント最終枚参照
Kaw　どのように個人を訓練するか，首長の撰び方，などに体制をわける際の便利な目印がないかという考えである。
Huz　川喜田案はた数傷れているが，これは色々の社会を貫いたもので生理学であると思う。分類学とは別の方向だ。種の固定ということになるだろうか。
Ume　僕のは博物学だ，生理学と博物学が一緒になったらいい。
Kaw　その為に僕も第1地域・第2地域を考えている。
Uey　前にイリゲイション という問題がでたが，これが第1地域・第2地域の理論でかたがつくのか，どうか。マルクス史学では封建がでてくるのがゲルマン型だといっている，そこでずっとメルクマールをあげている，だからこれを検討すればよい。スチュアードをイリゲイションはまだうまく扱っていない。

Kyoto University

Ima　梅棹さん・川喜田さんはどちらも独創的であるが これを既在のデーターにはまるようにして欲しい。

Uey　もう一つの疑問は普通云っているドレイ制は マルクスは ローマ・ギリシャ型といっているが これが第2地域にあると云えるのか。貝塚さんは古代シナにもあったというが。

Ume　あると思う。

Uey　そうすれば いまの理論とかみ合っていると思う。

Ima　第1，第2 というのは非常に昔までさかのぼるのか そうとすれば そのあたりではみな同じ様であったということになるか。

Ume　仲，第2の方が先にあった。その時第1は ゼロだった。第2の影響のもとに第1ができたのである。

Ima　そういうことを時間的に移り変わるというなら地図の上に書き込んで線をひいて見せてくれたら他の人も納得するだろうか。ヨーロッパなどではむづかしい処もあるだろう。

Ume　たとえば今考えているのは北イタリヤ。これは第2であると思うが現在どうしてああいうことになっているのか。

Ima　スペイン・ポルトガルは？

Ume　第2。

Kaw　カトリック・プロテスタントの分布図があるが第1，第2を決める時に利用できるのでないか。(フランスはカトリック，エルベ川)

Ume　日本は島だからきれてしまって問題がないようだが 地続きだったら，そして歴史的につながっているなら考えるべき地域は他にもあると思う。例えば揚子江 下流地域・朝鮮など。

Uey　朝鮮はポーランドに似ている，今度の戦争の受け方までそっくりだ。

Kaw　カロリー計算で農家一軒で何人無駄飯食わすことができるかを計算してみると日本にくらべてシナ・ヨーロッパは大体変らない。朝鮮だけがグンと低い。

O　それならポーランドはどうか。

Kaw　クローバによると朝鮮の歴史のエポックは殆んどシナの歴史のエポックに合わせてかわっている。

Ume　岩波新書を読んでもそうだ，それから朝鮮はベトナムによく似ている しかしベトナムははるかにナショナリズムがある。朝鮮の方がずっとシナの辺境という色が濃い。

Kaw　第1と第2と結びつかんかもしれんが シナは人生至上主義というか 親は子を育てるのに随分もとをかける訳でシナの親孝行はそのような合理主義があるようです。

Taw　死ぬまえに自分の稼ぎをみな使いきるのか。

Kaw　そんなこともなかろうが 死后もものすごい墓をつくるとか あとでかえさんならん closed system である。一方で親に育ててもらって それを利用して次へいくという open system の勘定のしかたもある。サイエンスの発達ということにこれは関係ないか。近代的セキュラリゼイションではよく似た closed system になっている。

Ima　日本は開かん方け？

Kaw　このごろそういうことになってきたところもあるようだが とにかく昔は自分の役にたたんことでも一生懸命になってみたり，イリュージョンかもしれんけど。

Ume　日本における社会主義思想の展開もそういうことになっているのだろう。ひらいている国だ，バランスシートが無限のカナタへあるという1日1日にバランスシートをとるのでない考え方，いつかは勘定がすむ。

Kaw　生物学でいえば無限に種を維持していくというようなことに関係するのかもしれない。

Ima　宗教でいえば最后の審判が何時あるかしらんけれど最后の勘定を無限の彼方に置いておくというようなのは進んだ宗教だと云えるだろう。

Kaw　輪廻の思想もそうだ

Ume　ロマンチシズムはそういうものだ オープンシステムの国のものだ。タイ国へ行ってひどく違うと思ったことはその点だ ロマンチシズムがない。恋愛でも金の切れ目が縁の切れ目というのがあんまりはっきりしているのでどうしようもないという。また愛国心というものも大変ロマンチックなものだと思う。自分のエネルギーがどこかへ消えてしまうのだが それでも何かに再生されると思っている。そういう自己犠牲の精神だ。

Kaw　そうだ，アカウントがない訳ではないけれど短期間だけで帳尻を合わせようというものではない。

Ume　佛教に帰依するという吾々の感じとはむこうは違うらしい。因果応報がショートスパンでくりかえされる。よいことをしたらよい報いがあるということが一日単位ぐらいで繰り返えされるという感じだ。(笑) 坊さんが来よる，何かやったらすぐ何かええことがある。文学でも日本なら一葉落ちて万物の秋を知るということがあるがむこうではそうはならない。木の葉が一枚落ちたのなら，それは一枚落ちたのであって二枚ではないという工合に考える，日本やったら無限の背后に展開するなにものかを考える，大変な違いだ。吾々の持っているロマンチシズムというものをこういう点から見なおさんならんと思う

Ima　大体今の後進国などは money economy に毒されてヤネ。なにかそういう非常な近視眼的になっているのではないか。

Sim　植民地になったせいでないか。

Ume　それは少しちがう，

Ima　植民地になるぐらいやったさかいやともいえるだろう。

Sim　しかし日本でも下町のオッサンなんかやったら毎日の金勘定に追われてショートスパンになっている人もあるのでないか。

Ima　日本でもいままでよろめいてきたんやといえる。佛教の入ってきた時分は冥想にふけったりしてロマンチックやったかもしらんが二宮尊徳なんかだいぶショートになっているのかもしれん。

Kyoto University

7.

Ume　商売の話では面白いことがある。例えば華僑などの商売の仕方は日本人とまるで違う。華
同じ店で2度買うたら2度目はかえってサービスが悪くなる。アイツは2度来ヨッタ
だからサービスせんでもええ。僕らもそれは体験した。だんだん大事にしてくれると思う
かえって高くなるのやと云われた。

Sim　シナでは余計買うとかえって高くなるというが。

Tan　イラクにもそんなことがある。少しやったら安い。

Ume　だから華僑の入れる地域は決まっている、ラングーンまで。カルカッタからむこうは同じ役割をインド
人がやっている。こっちへ来たらシナ商人、日本商人がガンバっているからインド商人は東アフリカまで。
華僑、インド人、ギリシャ人、コダヤ人、の順これらが入るのが資本主義がないのと同じで二つ4エが
空いている、これらは上手だから入ったというものではない。だから東南アジアでもあれだけ
華僑が入っていて、大商人があまり居ない。こういうのが植民地化する。

Uey　二つ4エの穴のあいているのとつまっているのとあるらしい。それと第1、第2には関係するか。

Ume　やはり封建制と関係があると思う、封建制があるとつまる、これが第1地域

Kaw　それは封建制ということか、前に話のでた商業革命の問題ではないか。封建制のあるようなところ
では急イトラレン（ショートスパンデナイ）そういう素朴さがかえって資本主義をおこなえるのでな
いか、いわばリーグ戦。

Ume　起源からいえば第1地域の方がずっとはやい。インドやらそうだ。はやく始ったとこはその古いや
り方でずっといきヨった。或いは点と点との交易になって一つの地域を相手にするような面的
なものにならヘンということがあるのでないのか。

Uey　それは大塚さんが云っている、パーリヤキャピタリズムでは点と点で資本主義はでてこない。

Ima　インドやらにゴッツイ資本家がでたというのはどういうことか。植民地になっておったのでか。

Ume　あれは売弁資本である。

Ima　しかし日本でもバイベンだろう。

Ume
Uey　日本はバイベンでない例えば中国におけるセッコー財閥などがそうなのでああいうものと
日本の資本家とは違うものだ、発生が違う。ビルラタータも英国を背景にせな成立しな
いだろう。

Ume　更に面白いのはインドはパルシー、華僑なら潮州・広東、インドネシヤはミナンカバウ、近東は
シリヤ、ギリシャでは小アジア出身など民族の中でもかなり限られた出身の問題がある。

Ima　近江商人はドウヤ。

Uey　まだわからん。

Ume　近江をなんぼひっかきまわしてもでてこんやにもっとワッとしたとらえ方が必要だろう。

Kyoto University